



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/06/17

あっさり黙示録 #64

黙示録が描くサタンの正体

黙示録 20章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日から**あっさり黙示録**、いよいよ**20章**に突入です。どうぞ、お付き合いいただきたいと思います。

20章に至るまでの背景を少し説明しましょう。

7年間の艱難時代の最終日、イエス・キリストは地上再臨します。

このキリストに挑む反キリストの戦争がハルマゲドン戦争でしたね。

しかし、キリストの栄光の前に、反キリストも偽預言者も、彼らに従うすべての軍隊も、なす術もなく滅びてしまいます。そして、反キリストと偽預言者は、どんな人よりも一足先に、永遠の地獄ゲヘナに投げ込まれるのです。

さて**20章**は、反キリストと偽預言者の背後にいた真の黒幕・悪の総本山のような存在、サタンですね。このサタンの結末について書いています。

結論から言うと、サタンはハルマゲドン戦争の後で完全に腰砕け状態となり、御使いにつまみ上げられるようにして縛られ、1000年間、底知れぬ穴アブソスに閉じ込められてしまいます。

黙示録 20章

1 また私は、御使いが底知れぬ所の鍵と大きな鎖を手にして、天から下って来るのを見た。

2 彼は、竜、すなわち、悪魔でありサタンである古い蛇を捕らえて、これを千年の間縛り、

3 千年が終わるまで、これ以上諸国の民を惑わすことのないように、底知れぬ所に投げ込んで鍵をかけ、その上に封印をした。その後、竜はしばらくの間、解放放たれることになる。

だれがだれに何をしたのか。このポイントでお話ししましょう。

だれがしたのか。天の御使いです。だれにしたのか。サタンにしたんです。

サタンに何をしたのか。捕らえて縛り、投げ込んで鍵をかけ、封印した。

サタンは墮落するまで、神が造られた御使い・天的存在の中で最高位にいました。

それが名もない一人の御使いに簡単に捕縛され、千年間投げ込まれてしまった。

千年間自由がなく閉じ込められてしまうのですが、それに一切抵抗しないんです。

なぜ抵抗しないのか。抵抗する気力すら薄れてるんですね。

長い間人類を苦しめて来た“この世の神”と呼ばれている者も、キリストの栄光を見た時、完全に腰砕け状態になってしまった。

それほどに、地上再臨のキリストの栄光はすさまじいものなんですね。

ところで、**黙示録**は悪魔について4種類の名前で説明しています。
その名前の意味を知ることによって、悪魔の本質を知ることができるのです。

①**竜**。ギリシア語でドラゴン。旧約聖書には**竜（レビヤタン）**が時々登場します。
竜の性質は凶悪・狂暴・残酷・残忍。むごい事を平気でやってのける。
非常に冷血・冷酷です。神が愛している人間が不幸になり滅びていくことを、心から喜び楽しんでいる、サディズムの純化した形、病的な形、その本質が悪魔なんです。竜という言葉の中に、悪魔の激しさ・獰猛さ・残酷さが表れています。
悪魔は人がコントロールできるような存在ではありません。非常に残酷な性格です。

②**悪魔**。悪魔と翻訳されている言葉は、ギリシア語でディアボロス／中傷する者。
悪魔はだれにだれを中傷するのか。2つあります。

- ・神に人間を中傷する。「神よ、あなたともあろう方が、なぜこんなにもバカな存在を庇うのですか。彼らは反逆者で、無知で、傲慢で、庇っても庇う甲斐のない存在ではないですか。信じるとか言ったってすぐに裏切るし、失敗するし。こんな者は庇う価値ありませんよ」と日々訴え、告訴している。
旧約聖書にその描写が出て来ます。悪魔は神に人間を中傷する者です。

- ・人間に神を中傷する。「人よ、もっと賢くなれ。理性を取り戻すのだ。なぜ目に見えない神など存在していると思うのか。神が聖書が語っている通りの全知全能で愛の神なら、なぜ世の中でこんなに酷い事がまかり通っているのか。神を信じることなんか愚かなことだ。もし神がいるなら、その神は愚か者だ。愚か者を信じる行為は愚かな行為だ」と、人に神を中傷するのです。
あるいは、人が持っている信仰を捻じ曲げる。神に対してひねくれたイメージを持つように、日々神を中傷します。

③**サタン**。これはギリシア語です。元々ヘブライ語ですが、意味は敵対する者。
サタンは神に敵対する者です。神の計画にことごとく敵対して妨害・邪魔する。
同時に神に従おうとする人、神に信頼し、イエス・キリストを信じる人に敵対する。
神の敵、それがサタンです。神の側に立った人はサタンの敵となります。

④**古い蛇**。人類歴史の中で一番古い記録は**創世記**です。
そこに人類最初の男と女の話が出て来ます。彼らはアダムとエバで、罪の無い状態で造られました。この二人をそそのかして神に反逆させた時、悪魔はどんな方法を使ったんでしょう。
「私が言うことに聞き従わないと殺してしまうぞ」と脅したのか。いいえ。そんなことはしませんでした。すごい奇跡を見せて信じさせようとしたのか。そんなこともしませんでした。

悪魔が神に背かせるために、人間に使った武器はウソです。フェイクです。
「神に逆らっても大したことはないよ。善悪の知識の木の実を取って食べても死にません。神が死ぬって言った？いやいや、死なないよ。神が嘘ついてんだよ。」

神を嘘つき呼ばわりして人に疑念を入れ、反逆させたのです。
嘘によって全人類の不幸の根源を作り出したと言えるでしょう。

蛇を使った最初の嘘を連想させるのがこの古い蛇で、悪魔は嘘を使って私たちの信仰を歪めたり、キリストを信じる意欲を失わせたりします。
これが、長い間人類の上に働き続けてきました。しかし、地上再臨のキリストの到来とともに御使いが天から下って来て、サタンを底知れぬ所に投げ込むのです。

1 また私は、御使いが底知れぬ所の鍵と大きな鎖を手にして、天から下って来るのを見た。

底知れぬ所（アブソス）は悪霊どもの巣窟で、留置場のような所です。
そこに閉じ込めておく。これは人類史上初めて、サタンが人間世界に直接働くことができない時代がやって来ます。
アダムとエバが造られたばかりのエデンの園の時代も、悪魔はエデンの園に自由に出入りすることが許可されていました。しかし、艱難時代が終わってから千年間、悪魔が一切活動できない時代が来るのです。なので、この千年間は非常に落ち着いた、素晴らしい至福の時代です。それで、この時代をメシア的王国／千年王国と言います。

さて、私たちは黙示録を通して悪魔の結末を知りました。悪魔は決して無敵の存在ではなく、完全敗北が既に決定づけられている存在です。
そのことを悪魔自身もよく知っています。悪魔は黙示録について、どんな聖書研究者よりも詳しいと思いますよ。だから悪魔は、自分の最後が書いてある黙示録を読ませないように働きます。「黙示録、難しいから勉強したって分からないよ。」
それで、多くのクリスチャンが黙示録を避けて来ました。それはどんなに大きな損失だったでしょう。黙示録に人類の敵の敗北が明確に記されているのです。

さて、リバイバルという言葉聞いた時、色んなことが連想されますね。
“アメリカのラズベリー大学でリバイバルが起こった”とか、そんなニュースも聞きますが、真のリバイバルは聖書の正確な理解によって始まるのです。
私たちが恐れるべき方はどんな方なのか、聖書を正確に理解することで、その考えは強められていきます。

サタンを恐れなくてもよい勇気を、どのようにして持つことができるでしょうか。
サタンの結末はこうなんだということを、聖書を通して正確に知ることです。
実に、聖書を理解することがリバイバルの始まりです。
私は霊の戦いとは、異言を語ったり、奇跡をやったり、悪霊を追い出したり、そんなことの中にあるとは考えていません。

そうではなく、みことばの真理を巡る戦いなのです。聖書のみことばを正確に知れば、余計な回り道をすることなく、ピンポイントに進むべき道が分かり、戦うべき相手の正体を知ることができるのです。

いよいよ 20 章。素晴らしいことが始まるので、これからもご一緒に見ていきたい
と思います。よろしければお付き合いください。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。
皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017